

## 第1回知事メッセージ起草委員会 主な意見

### ○全体的な趣旨・構成について

- ・10年間でこれだけ新しいものを見いだしているという部分をより強く示していくべき。
- ・メッセージを見たり、聞いたりしたら、被災地はどうなっているのだろうと、福島は今どうなっているのだろうと、是非行ってみたい、見てみたいと思えるような、そんなメッセージにしたい。
- ・11年目は難しいなと思っていたところ。原子力災害のこれからについて、しっかりと一歩一歩進んでいくためのメッセージとしたい。
- ・震災のこと、風化のこと、コロナのこと、どういった割合で文章の中に配置するか、非常に難しい。
- ・10年が経過し、進んでいることがありすぎて、後ろにある影を振り返って見ることができていない。だからこそ、前を向いて歩いていけるような強い言葉を知事メッセージで表現していきたい。
- ・今もまだ困り続けている、悩み続けている方に、ゆっくりでいい、いつまでも県で皆さんのことを見守っていますよ、という知事の温かい言葉が添えられると良い。
- ・福島を忘れないでというメッセージよりも、福島には経験知があって、こんな変化をしてきたので全国でも福島を見習ってみませんか、というような発信が風化防止につながる。
- ・震災以降の主な出来事を年表にまとめて振り返ると心がぐっとなる。メッセージもそうだが、こういったものがあると、更に文章に伸びがでると思うので、上手く活用できたら良い。
- ・光と影について、特定復興再生拠点の避難指示解除、帰還が始まるということで、そこは光が広がっていく部分になるよう押し出していきたい。一方で、1つ前に出ると周辺の方が不安になるだろうと、取り残されてしまったと思う方々の不安を、どのように汲み取って文面に優しく包み込むか。
- ・風化に荷担する側にならないため、最先端で原発のことを考えていかなければならないし、忘れてはいけない。

## ○入れ込むべき内容について

- ・これまでこんなことを実現してきている、これからもこんなことを実現する可能性がある、というメッセージが1つ必要。
- ・県内でなかなか前向きになれない方の道しるべとなるよう、福島県民ってこんなにすごいのだぞ、ということメッセージに強く込められると良い。
- ・復興は、もっと先が長いという部分もあるので、そんなに焦らなくても良いので、悲観することもないし、一步一步目標に向かって進んでいきましょうということも盛り込めれば良い。
- ・強いメッセージ性を生むというところでは、大変だった方、一人にスポットを当てる方法もある。
- ・ふるさとを想う未来の子どもたちが、今回のキーワードになってほしい。
- ・新しいまちづくりや、勢いがある県というのも大事だと思うが、一方で、昔ながらの福島の良さを残していくという伝承の部分も必要。
- ・一つ一つ実現する、一人一人実現する、福島に来ると誰もが自分の夢を実現できますよ、というようなメッセージを送るのも良い。
- ・県民の声を引用することが今回のポイント。県外に避難している方を今回一人ピックアップしてはどうか。外にいる立場からの福島への思いや私たちも一緒の思いだよというところを、この10年経ったタイミングだからこそ言えるのかなど。
- ・食の話は人に届けやすく分かりやすい、海外でも福島のを輸入してくれるようになったので、福島の食をアピールしていくというのは良い。

## ○メッセージの発信について

- ・この10年間で震災を経験していない子どもが県内に約10万人誕生していて、県外はもちろん、県内のこのような人にもメッセージが届かないといけない。
- ・未来の子どもをみんなで育てようと、特別な人が伝えるのではなく、家族間で伝え合っていくことも、1つの伝える手段。